



2018年10月31日

各位

会社名 アステラス製薬株式会社  
代表者 代表取締役社長 CEO 安川 健司  
コード番号 4503  
(URL <https://www.astellas.com/jp/>)  
東証 (第一部)  
決算期 3月  
問い合わせ先 広報部長 緒方 スティグ  
Tel: (03)3244-3201

## 抗体医薬、細胞医療など新たなモダリティとテクノロジーを活用した 新薬開発のための研究開発・製造施設建設のお知らせ

アステラス製薬株式会社(本社:東京、以下「アステラス製薬」)は、新たなモダリティ(治療手段)とテクノロジー(基盤技術)を活用した新薬開発のための研究開発・製造施設を建設しますので、お知らせします。

アステラス製薬は、最先端の科学に基づき、創薬標的を見出し、さまざまな疾患に応用可能なモダリティ/テクノロジーと組み合わせることで、アンメットメディカルニーズの高い疾患に対する革新的な医薬品の創出を目指しています。これまで数多くの新薬を創製してきた低分子化合物だけでなく、抗体医薬のほか細胞医療、次世代型ワクチン、遺伝子治療などの新しいモダリティを活用した新薬の研究開発に取り組んでいます。こうした取り組みを通じて、現在、臨床試験および臨床試験前の段階に複数の開発プログラムが進んでおり、これらの今後の進展と将来の商業化を見据え、国内外において研究開発施設、治験薬の製造や商業用の初期生産を担う製造施設を建設します。

新たな研究開発・製造施設の詳細は以下の通りです。

### ● バイオ原薬棟(仮称)の建設(日本)

アステラス製薬の生産子会社であるアステラス ファーマ テック株式会社の富山技術センター内に建設する「バイオ原薬棟(仮称)」は、日本、米国、欧州向けの治験用および商業用抗体の製造が可能であるとともに、細胞医療などの他のモダリティにも対応できる製造設備です。地上4階建て、延床面積約8,000m<sup>2</sup>のバイオ原薬棟の建設により、治験用および商業用バイオ原薬の製造能力が大幅に増強され、今後の状況変化にも柔軟に対応できるグローバル供給体制が整うこととなります。総工費は約100億円で2018年11月着工、2019年9月中の完成を予定しています。

● マルチ治験薬棟(仮称)の建設(日本)

アステラス製薬のつくばバイオ研究センター内に建設する「マルチ治験薬棟(仮称)」は、日本、米国、欧州向けの遺伝子治療や細胞医療の開発を目的とした臨床初期治験薬(第 I 相試験～第 II 相試験)を製造するための設備です。地上 2 階建て、延床面積約 1,800 m<sup>2</sup> のマルチ治験薬棟の建設により、複数のモダリティの開発プログラムの進展状況に応じた柔軟かつタイムリーな治験薬の供給が可能となることから、開発から上市までの期間短縮が期待できます。総工費は約 50 億円で、2018 年 9 月に着工しており、2019 年 3 月中の完成を予定しています。

● AIRM の移転とリノベーション(米国)

アステラス製薬の子会社で再生医療や細胞医療の研究開発の拠点であるアステラス インスティテュート フォー リジェネレイティブ メディシン(Astellas Institute for Regenerative Medicine、以下「AIRM」)は、AIRM が現在本社を置く米国マサチューセッツ州内の新たな施設(地上 2 階建て、延床面積約 24,000 m<sup>2</sup>)に移転するとともに、同施設のリノベーションを行う予定です。このたびの施設の移転とリノベーションによって、再生・細胞医療分野における研究開発のスピードアップを図るだけでなく、製造設備を増強することで円滑な治験薬の供給が可能となります。また、当該施設は今後の開発の進展を見据え、商業用生産にも対応できる設計となっています。総工費は約 140 億円で、2018 年 9 月に着工しており、2020 年 1 月中の完成を予定しています。

なお、本件による業績への影響は、2019 年 3 月期業績予想に織り込み済みです。

以上

<参考>

【バイオ原薬棟(仮称)の概要】

- (1) 場所:アステラス ファーマ テック株式会社 富山技術センター内(富山県富山市  
興人町 2 番 178 号)
- (2) 階数・延床面積:地上 4 階建て、延床面積 約 8,000 m<sup>2</sup>
- (3) 総工費:約 100 億円
- (4) 工期:2018 年 11 月着工、2019 年 9 月中に完成予定

完成予想図(CG合成)



#### 【マルチ治験薬棟(仮称)の概要】

- (1) 場所: アステラス製薬株式会社 つくばバイオ研究センター内(茨城県つくば市東光台 5-2-3)
- (2) 階数・延床面積: 地上 2 階建て、延床面積 約 1,800 m<sup>2</sup>
- (3) 総工費: 約 50 億円
- (4) 工期: 2018 年 9 月着工、2019 年 3 月中に完成予定

#### 完成予想図(CG合成)



#### 【AIRMの移転とリノベーションの概要】

- (1) 移転先: 米国マサチューセッツ州ウエストボロ テクノロジードライブ 9
- (2) 階数・延床面積: 地上 2 階建て、延床面積 約 24,000 m<sup>2</sup>
- (3) 総工費: 約 140 億円
- (4) 工期: 2018 年 9 月着工、2020 年 1 月中に完成予定

#### **アステラス インスティテュート フォー リジネレイティブ メディシン(AIRM)について**

アステラス インスティテュート フォー リジネレイティブ メディシン(AIRM)は、アステラス製薬が Ocata Therapeutics Inc.を買収した後、2016年5月に設立されました。アステラス製薬の100%子会社であり、本社を米国マサチューセッツ州マルボロに置き、日本のつくば市にある研究チームと連携しています。既存の治療選択肢がわずかしか無い、全く無い眼科領域や、その他の治療領域における、再生医療や細胞医療研究の国際的な拠点としての役割を担っています。自社での研究と社外との共同研究開発を連携させながら、既存技術や独自技術を活用して、さまざまな疾患に対する細胞医療の研究に重点的に取り組んでいます。

#### **アステラス製薬について**

アステラス製薬株式会社は、東京に本社を置き、「先端・信頼の医薬で、世界の人々の健康に貢献する」ことを経営理念に掲げる製薬企業です。アステラス製薬の詳細については、(<https://www.astellas.com/jp/>)をご覧ください。

#### **注意事項**

このプレスリリースに記載されている現在の計画、予想、戦略、想定に関する記述およびその他の過去の事実ではない記述は、アステラス製薬の業績等に関する将来の見通しです。これらの記述は経営陣の現在入手可能な情報に基づく見積りや想定によるものであり、既知および未知のリスクと不確実な要素を含んでいます。さまざまな要因によって、これら将来の見通しは実際の結果と大きく異なる可能性があります。その要因としては、(i)医薬品市場における事業環境の変化および関係法規制の改正、(ii)為替レートの変動、(iii)新製品発売の遅延、(iv)新製品および既存品の販売活動において期待した成果を得られない可能性、(v)競争力のある新薬を継続的に生み出すことができない可能性、(vi)第三者による知的財産の侵害等がありますが、これらに限定されるものではありません。また、このプレスリリースに含まれている医薬品(開発中のものを含む)に関する情報は、宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。